



令和6年11月7日

# 福岡県内経済情勢報告

令和6年11月

財務省福岡財務支局

〔問い合わせ先〕

財務省 福岡財務支局 経済調査課

電話 092-411-9038

# 福岡県内経済情勢報告

## 1. 総論

【総括判断】「県内経済は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（6年7月判断）	今回（6年10月判断）	前回比較
総括判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	→

（注）6年10月判断は、前回6年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響等がみられるものの、緩やかに回復している。生産活動は、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（6年7月判断）	今回（6年10月判断）	前回比較
----	------------	-------------	------

個人消費	物価上昇の影響等がみられるものの、緩やかに回復している	物価上昇の影響等がみられるものの、緩やかに回復している	→
生産活動	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しに向けた動きに一服感がみられる	↘
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

設備投資	6年度は増加見込み	6年度は増加見込み	→
企業収益	6年度は減益見込み	6年度は減益見込み	→
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	↘
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、海外景気の下振れや物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「物価上昇の影響等がみられるものの、緩やかに回復している」

百貨店販売は、伸びの鈍化がみられるものの、インバウンド向けを中心にラグジュアリーや化粧品が引き続き好調なことから前年を上回っている。スーパー販売は、買い控えがみられるものの、価格転嫁の浸透もあり前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、都心部におけるインバウンド需要等により前年を上回っている。乗用車販売は、普通車、小型車、軽乗用車のいずれも持ち直しの動きがみられ、前年を上回っている。ドラッグストア販売は、日用品等が好調のほか、新規出店の効果もあり前年を上回っている。家電大型専門店販売は、季節家電の売上げが好調であったことなどから前年を上回っている。ホームセンター販売は、防災用品などの需要増により前年を上回っている。旅行取扱高は、一部に旅行支援事業の反動減がみられるものの、堅調に推移している。

### ■ 生産活動 「持ち直しに向けた動きに一服感がみられる」

輸送機械の自動車は、昨年度の高水準の生産の反動等により、生産活動の低下が継続している。はん用・生産用機械は、緩やかな増加基調となっている。電子部品・デバイスは、在庫調整が進みつつあるものの、弱い動きとなっている。鉄鋼は、建築資材の需要等が伸び悩んでおり、横ばい圏内で推移している。

### ■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。新規求人数は前年を上回っている。

### ■ 設備投資 「6年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年7-9月期

6年度は、製造業は前年比72.1%の増加見込み、非製造業は同14.8%の増加見込みとなっており、全産業では同27.6%の増加見込みとなっている。

### ■ 企業収益 「6年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年7-9月期

6年度は、製造業は前年比19.8%の減益見込み、非製造業は同0.3%の増益見込みとなっており、全産業では同5.7%の減益見込みとなっている。

### ■ 住宅建設 「前年を下回っている」

新設住宅着工戸数でみると、給与住宅が増加しているものの、持家、貸家及び分譲住宅が減少していることから前年を下回っている。

### ■ 輸出 「前年を上回っている」

輸出(円ベース)は、前年を上回っている。なお、輸入(円ベース)は、前年を上回っている。

#### (その他項目)

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査(6年7-9月期)の景況判断BSIでみると、6年7-9月期は、「上昇」超となっている。先行きについては、6年10-12月期は「上昇」超の見通しとなっている。